



北海道神経難病研究センター
2023年度活動報告

第12号

(2023年4月～2024年3月)

北海道神経難病研究センター

目 次

1. 2023年度活動報告について
2. 北海道神経難病研究センターの概要
3. 2023年度活動報告
 - (1) 神経難病臨床研究部門
 - (2) 神経難病リハビリテーション部門
 - (3) 神経難病看護・ケア部門
 - (4) 神経難病医療相談・福祉支援部門
4. 北海道神経難病研究センター主催講演会
 - 神経難病セラピストの座談会
 - 北海道神経難病ケースカンファレンス
 - 第12回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会

1 2023年度活動報告について

北海道神経難病研究センターは、平成23年7月に神経難病に関する病態解明および学術的治療研究、看護をはじめとしたコメディカルによる多角的臨床研究、神経難病患者を中心とした医療環境に対する調査・研究を行い、これら神経難病に対する総合的かつ包括的な研究を推進し、北海道における神経難病医療と環境の発展を図ることを目的に設立した。

研究センター全体としての活動は、平成23年度活動報告、平成24年度活動報告、平成25年度活動報告、平成26年度活動報告、平成27年度活動報告、平成28年度活動報告、平成29年度活動報告、平成30年度活動報告、平成31年度は2019年度活動報告として発刊し、2020年度活動報告、2021年度活動報告、2022年度活動報告に引き続き、今回、2023年4月～2024年3月までの活動を2023年度活動報告としてまとめました。

2020年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、人が集まる会議・会合は控えられ、講演会もオンライン講演会となり、2022年度後半からは対面講演会とWeb講演会を同時開催するハイブリッド講演会が開催されるようになりましたが、臨床研究は対面での研究が低迷しております。

各部門での活動のほか、北海道神経難病リハビリテーション研究会の第12回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会をWeb講演会として開催し、神経難病緩和医療研究会講演会は開催できておりません。

これまでの多方面の方々からご支援賜りましたことを深謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻下さりますよう、お願い致します

2024年4月

専務理事・センター長 森若文雄
代表理事 濱田晋輔

2 北海道神経難病研究センター 概況

(1) 設置年度：平成 23 年 7 月 7 日

(2) 組織：北海道神経難病研究センター 最高顧問：田代邦雄
同 センター長・専務理事：森若文雄
同 代表理事：濱田晋輔

研究部門（主任研究者）：

- 1) 神経難病臨床研究部門（武井麻子）
- 2) 神経難病リハビリテーション部門（中城雄一）
- 3) 神経難病看護・ケア部門（佐藤美和、大久保暁子、三谷理子、藤田恵巳子）
- 4) 神経難病関連（検査、薬剤、栄養）部門（杉山和美、瀧元裕二、工藤麗子）
- 5) 神経難病在宅医療・地域医療部門（本間早苗）
- 6) 神経難病医療相談・福祉支援部門（下川満智子）

(3) 事業

- 1) 神経難病医療に関する臨床医学的調査・研究
- 2) 神経難病に関するリハビリテーション研究
- 3) 神経難病に関する看護調査・研究
- 4) 神経難病医療とその関連諸部門の学際的調査・研究
- 5) 神経難病に関する地域・在宅医療調査、研究
- 6) 神経難病医療に関する患者を中心とした環境調査・研究
- 7) 第1号から第6号まで掲げる調査・研究に対する研究助成
- 8) 北海道における神経難病医療に関する諸交流の推進
- 9) 神経難病医療に関する研究者の育成
- 10) 神経難病医療に関する諸成果の刊行
- 11) 神経難病医療に関する研修会・講演会・シンポジウム等の開催
- 12) 神経難病医療調査・研究に関する文献等の収集及び閲覧
- 13) 北海道における神経難病医療調査・研究の受託
- 14) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

3 2023年度活動状況：

(1) 神経難病臨床研究部門

神経難病臨床研究部門は、医務部が各部と連携して活動している。【研究業績】、【社会活動】、【教育活動】にわけて報告する。

【研究業績】

<論文>

1. 森若文雄、濱田晋輔、田代邦雄：Charcot-Marie-Tooth病、鈴木則宏編、最新ガイドラインに基づく神経疾患 診療指針 2023- '24、p347-350、総合医学社 2023
2. 桑原 聡、渋谷和幹、深見祐樹、関口兼司、大崎裕充、田代 淳、秋山鉄志、土肥 衛：慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチーに対する免疫グロブリン維持療法の点滴時間と患者申告 quality of life 調査、神経治療 40:104-111, 2023
3. Hamada S, Takahashi-Iwata I, Satoh K, Kitamoto T, Mizusawa H, Moriwaka F, Yabe I: Genetic Creutzfeldt-Jakob disease with 5-octapeptide repeats presented as frontotemporal dementia, Hum Genome Var 2023 10(1):10. doi:1111 10.1038/s41439-023-00237-w., 2023
4. Iijima K, Watanabe H, Nakashiro Y, Iida Y, Nonaka M, Moriwaka F, Hamada S. Long-term effects of the gait treatment using a wearable cyborg hybrid assistive limb in a patient with spinal and bulbar muscular atrophy: a case report with 5 years of follow-up Front Neurol 2023 Jun 8:14:1143820 doi:10.3389/fneur.2023.1143820.eCollection 2023.
5. Eguchi K, Yaguchi H, Kudo I, Kimura I, Nabekura T, Kumagai R, Fujita K, Nakashiro Y, Iida Y, Hamada S, Honma S, Takei A, Moriwaka F, Yabe I. Differentiation of speech in Parkinson's disease and spinocerebellar degeneration using deep neural networks J Neurol 2024 Feb;271(2):1004-1012. doi: 10.1007/s00415-023-12091-5. Epub 2023 Nov 21. (J Neurol. 2024 Feb;271(2):1004-1012. doi: 10.1007/s00415-023-12091-5. Epub 2023 Nov 21.
6. Niino M, Fukumoto S, Okuno T, Sanjo N, Fukaura H, Mori M, Ohashi T, Takeuchi H, Shimizu Y, Fujimori J, Kawachi I, Kira JI, Takahashi E, Miyazaki Y, Mifune Health-related quality of life in Japanese patients with multiple sclerosis.N.J Neurol. 2023 Feb;270(2):1011-1018. doi: 10.1007/s00415-022-11453-9. Epub 2022 Nov 5.
7. 日本神経学会監修：深浦 彦彰（診療ガイドライン委員）、多発性硬化症・視神経脊髄炎スペクトラム障害診療ガイドライン 2023、医学書院（東京）、2023

【学会・講演会発表】

【2023 年度】

- 4月3日(火) 診療科横断的に考える自己免疫疾患の治療戦略 web 配信 Medii
深浦 彦彰; 多発性硬化症の最新治療
- 4月17日(月) NMOSD(視神経脊髄炎スペクトラム障害)の「鈎根医療連携」を考える会
(市立根室病院、根室市)
深浦 彦彰; 視神経脊髄炎 NMOSD の治療を考える
- 4月21日(金) 埼玉 MS・NMO 研究会 2023 (パレスホテル大宮、埼玉県)
深浦 彦彰; 最新の MS 情報・ガイドラインのポイント
- 6月17日(土)～18日(日)
第5回日本メディカル AI 学会学術集会(コングレスクエア日本橋)
佐藤翔紀、上床 尚、江口克紀、矢口 裕章、矢部 一郎:
歩行動画と深層学習モデルを利用した神経疾患歩行障害の鑑別
- 6月21日(水) 秋田市神経脊髄炎 web seminar、秋田市
深浦 彦彰: NMOSD 診療アップデート
- 7月5日(水) Neurology Conference for young Neurologist
江口克紀: AI を利用したパーキンソン病の歩行分析
- 7月6日(木) パーキンソン病地域医療連携セミナー-2023
～パーキンソン病の歩行と動作・生活支援
廣谷 真: パーキンソン病患者の治療満足度を高める生活指導の秘訣
- 7月20日～22日 MDSJ(日本パーキンソン病・運動障害疾患学会)
江口克紀: 音声データと深層学習を利用した運動低下性および失調性構音障害の鑑別
- 8月2日(水) Neurology Web Seminar
江口克紀: パーキンソン病診療への AI 活用の試み
- 8月8日(水) 北海道 Neurology Seminar 2023
濱田晋輔: パーキンソン病 ～嚥下障害と栄養について～
- 8月9日(水) 神経難病連携セミナー in 道東
深浦彦彰: MS/NMOSD の治療アップデートと医療連携(道東編)
- 9月8日(金) Hokkaido Parkinson's Disease Crosstalk Symposium 2023
濱田晋輔: パーキンソン病の ACP(アドバンス・ケア・プランニング)
- 9月12日(火) 利尻・礼文難病検診 講演会
濱田晋輔: 脳神経内科の診療: パーキンソン病を中心に
- 9月20日(水) NMOSD クリニカルセミナー in 信州、長野市、長野県

- 深浦彦彰：NMOSD の診療アップデート
- 9月30日（土）第10回これからのパーキンソン病治療を考える会
江口克紀：パーキンソン病診療へのAI活用の試み
- 10月6日（金）ランチタイムセミナー、札幌
深浦彦彰：患者さんのライフスタイルに寄り添ったMS診療
～ガイドラインを踏まえて～
- 10月17日（火）岩手講演会
濱田晋輔：パーキンソン病の非運動症状：便秘
- 10月18日（水）一日本医師会生涯教育講座一 根室市外三郡医師会講演会 根室市
深浦彦彰：神経変性疾患の基礎知識ーパーキンソン病を中心に
- 10月20日（金）北祐会サロン
濱田晋輔：パーキンソン病に関して
- 10月25日（水）エムガルティ East Japan Migraine Web Conference
山田恵子：片頭痛の慢性化とリスク評価の試み
- 11月10日（金）パーキンソン病における慢性便秘症治療 ZOOM LIVE SEMINAR
濱田晋輔：神経難病の排便管理 ～新しい便秘薬の使い方～
- 11月28日（火）PD治療を考える会 in 北海道
濱田晋輔：PD患者における北祐会の取り組み
- 12月1日（金）第51回日本頭痛学会総会（パシフィコ横浜会議センター）
山田恵子：北海道岩見沢市の慢性頭痛外来にて診療した
50歳以上の頭痛患者についての検討
- 12月6日（水）Neuroscience Web Seminar 多職種連携講演会
森若文雄：高齢パーキンソン病と転倒・骨折
- 12月9日（土）PD患者の真のQOLを考える研究会
濱田晋輔：北祐会でのパーキンソン病の取り組み
- 12月12日（火）NMOSD講演会 札幌市
深浦彦彰：NMOSDの治療ー疾患を抱えた患者の人生の観点からー
- 12月17日（日）MSキャビン ウェブフォーラム、web
深浦彦彰：MS治療選択肢について
- 12月19日（火）パーキンソン病のリハビリテーション医療を考える
濱田晋輔：MAO-B阻害薬とリハビリテーション

【2024年】

- 1月17日(水) これからのパーキンソン病治療を考える会
濱田晋輔：P D患者における当院の取り組み
- 1月30日(火) 令和5年度 中央区難病研修会
菊地誠志：神経難病の在宅医療 ALSを中心に
- 1月30日(火) 関東甲信越 NMOSD Update Seminar、web配信
深浦彦彰：新しい再発予防戦略ーガイドライン改定を踏まえー
- 2月2日(金) Neuroscience Web Seminar 多職種連携講演会
廣谷 真：パーキンソン病患者の治療満足度を高める生活指導の秘訣
- 2月2日(金) 令和5年度スモンに関する調査研究班 研究報告会
石坂美波、内海菜紀、中城雄一、森若文雄、濱田晋輔：
対麻痺を呈する経過58年目のスモン患者に対するリハビリテーション報告
- 2月7日(水) Parkinson's Disease Eisai Web Seminar
濱田晋輔：パーキンソン病の多様性～ACPへの対応～
- 2月21日(水) 片頭痛診療連携WEB講演会
山田恵子：知っておきたい片頭痛治療の最新の動向
～レイボーとエムガルディからはじまる片頭痛治療の未来～
- 2月27日(火) 難病連ヘルパー研修会
武井麻子：第1回 神経難病 SCDのケア
- 3月2日(土) 第113回日本神経学会北海道地方会(北海道大学医学部大講堂)
岩田育子、阿部 恵、濱田晋輔、白井慎一、松島理明、矢口裕章、江口克紀、森若文雄、
矢部一郎：北海道地区のプリオン病サーベイランスと非定型的gCJD
- 3月10日(日) 第13回市民公開講演会 ～多発性硬化症(MS)と市神経脊髄炎(NMOSD)～
深浦彦彰：パネルディスカッション 治療について
- 3月13日(水) Neurology Conference 獨協医科大学、栃木県
深浦彦彰：NMOSDの治療 Update
- 3月16日(土) 日本小脳学会 第14回学術集会・総会
(北海道大学医学部百年記念館大講義室)
江口克紀、長井 梓、飯田有紀、濱田晋輔、本間早苗、武井麻子、森若文雄、
矢口裕章、矢部一郎：小脳失調患者の歩行動画と深層学習を利用した疾患鑑別および
重症度予測に関する研究
- 3月28日 片頭痛Webセミナー ～総合内科専門医が診る片頭痛～
山田恵子：知っておきたい片頭痛治療の最新の動向
～レイボーとエムガルディからはじまる片頭痛治療の未来～

3月23日(土) NMOSD市民公開講座、川越市、埼玉県

深浦彦彰：NMOSDの最新治療

【社会活動】

【検診・医療班派遣】

1. 濱田晋輔：令和5年度利尻礼文在宅難病患者訪問検診、稚内保健所、9月12日～14日

【教育関係】

【講義】

1. 武井麻子・本間早苗：札幌医療リハビリ専門学校夜間部講義
 - 1) 神経内科総論
 - 2) 脊髄小脳変性症
 - 3) 多系統委縮症
 - 4) 高次脳機能障害
 - 5) 遺伝子性末梢神経障害
 - 6) 自己免疫性疾患（中枢性）
 - 7) 自己免疫性疾患（末梢神経）
 - 8) 筋疾患
 - 9) 絞扼性神経障害

(2) 神経難病リハビリテーション部門

理学療法領域、作業療法領域、言語聴覚療法領域での活動を報告し、【研究業績】、【教育活動】、【社会活動】と2022年度医療用HAL実施実績にわけて報告する。

【研究業績】

【原著論文 共著】

1. Iijima K, Watanabe H, Nakashiro Y, Iida Y, Nonaka M, Moriwaka F, Hamada S. Long-term effects of the gait treatment using a wearable cyborg hybrid assistive limb in a patient with spinal and bulbar muscular atrophy: a case report with 5 years of follow-up *Front Neurol* 2023 Jun 8;14:1143820 doi:10.3389/fneur.2023.1143820. eCollection 2023.
2. Eguchi K, Yaguchi H, Kudo I, Kimura I, Nabekura T, Kumagai R, Fujita K, Nakashiro Y, Iida Y, Hamada S, Honma S, Takei A, Moriwaka F, Yabe I. Differentiation of speech in Parkinson's disease and spinocerebellar degeneration using deep neural networks *J Neurol* 2024 Feb;271(2):1004-1012. doi: 10.1007/s00415-023-12091-5. Epub 2023 Nov 21. (*J Neurol*. 2024 Feb;271(2):1004-1012. doi: 10.1007/s00415-023-12091-5. Epub 2023 Nov 21.

【症例報告・その他】

1. 石坂美波、内海茉紀、中城雄一、森若文雄、濱田晋輔：対麻痺を呈する経過58年目のスモン患者に対するリハビリテーション報告、令和5年度厚生労働行政推進事業費補助金 スモンに関する調査研究班 研究報告会、2024

【学会発表、国内全国学会】

1. 後村圭太、太田経介、中城雄一、森若文雄：側屈姿勢を呈するパーキンソン病患者の立位姿勢制御の特徴-疾患重症度別の比較-、第64回日本神経学会学術大会、2023.5.31-6.3（千葉）
2. 鍋倉智子、小林鞠奈、瀧上 聖、岩波真奈、藤田賢一、中城雄一、飯田有紀、森若文雄：パーキンソン病の栄養状態とその関連因子について、第24回日本言語聴覚学会（愛媛）2023.6.23-24、オンライン
3. 成田雅、坂野康介、中城雄一、森若文雄、濱田晋輔、岡田洋平：パーキンソン病のベッド上動作の左右差とその関連要因に関する横断的観察研究、第17回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres（大阪）、2023.7.20-22.
4. 成田雅、坂野康介、中城雄一、森若文雄、濱田晋輔、岡田洋平：パーキンソン病のベッド上動作の自立に関連する要因の検討、第21回日本理学療法学術大会（神奈川）、2023.9.9-10.
5. 遠藤夢叶、太田経介、岩部達也：抑うつ・不安症状を呈したPD患者に対する笑顔トレーニングによる

歩行能力への介入効果：シングルケースデザイン、第 21 回日本理学療法学会学術大会（神奈川）2023. 9. 9-10

6. 太田経介、坂野康介、成田雅、野田貴輝、後村圭太、武田賢太、河島則天：パーキンソン病患者の歩行特性—重心追尾型歩行計測システムを用いた歩行評価—第 21 回日本神経理学療法学会学術大会，2023. 9. 10，神奈川
7. 坂野康介、成田雅、太田経介、野田貴輝、後村圭太、武田賢太、河島則天：脊髄小脳変性症患者の立位姿勢制御の特性～重心と筋活動に着目して～，第 21 回日本神経理学療法学会学術大会，2023. 9. 10，神奈川
8. 後村圭太、太田経介、武田賢太：異なる立位姿勢制御戦略をもつ側屈姿勢を呈したパーキンソン病 2 症例の対比的考察、第 21 回日本神経理学療法学会学術大会、2023. 9. 9-10（神奈川）
9. 轟田知也、萩原大悟、丸山幸輝、廣谷真：パーキンソン病患者の転倒自己効力感に関連する要因の検討、第 11 回日本神経難病ネットワーク学会学術集会（名古屋）2023. 11. 24-25
10. 石坂美波、内海茉紀、中城雄一、森若文雄、濱田晋輔：対麻痺を呈する経過 58 年目のスモン患者に対するリハビリテーション報告、令和 5 年度厚生労働行政推進事業費補助金 スモンに関する調査研究班 研究報告会、2024. 2. 3，東京

【研究会】

1. 太田経介：「早期パーキンソン病に対する立位姿勢制御の停滞への介入は重要ではなかろうか」、第 29 回北海道神経難病ケースカンファレンス，2023. 7. 20，オンライン
2. 成田雅：起居動作に対する標準的理学療法プログラム，第 16 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス PD 遠隔リハビリテーション研究会（大阪）、2023, 7, 21～23、
3. 高橋美博：「パーキンソン病患者の疲労を考える」，第 30 回北海道神経難病ケースカンファレンス，2023. 11. 16 ， オンライン
4. 瀧上聖：多系統萎縮症患者の外部的変化に対する予測的な対応 北海道言語聴覚士会，2024. 3. 7，オンライン

【講演】

1. 中城雄一：CIDP のリハビリテーション，末梢神経障害 多職種連携の会，武田薬品工業主催，2023, 4, 4，オンライン
2. 熊谷隆人：パーキンソン病患者の嚥下障害を早期検出するための他覚的臨床評価実施の必要性，一般財団法人 北海道神経難病研究センター，2023. 4. 14，オンライン
3. 太田経介：パーキンソン病のリハビリテーション：評価編，2023. 4. 20，オンライン

4. 太田経介：パーキンソン病のリハビリテーション：治療編，2023. 5. 18，オンライン
5. 中城雄一：パーキンソン病のリハビリテーション ～当院のご紹介～，ハルロピ®テープ Web セミナー，他職種で考えるパーキンソン病，協和キリン主催 2023, 6, 8，オンライン
6. 坂野康介：PDにおける multimorbidity リハビリテーション，脳神経内科・整形連携セミナー，アムジエン株式会社，2023. 6. 16，札幌
7. 丸山幸輝：なぜパーキンソン病患者は転倒するのか 協和キリン株式会社 2023. 07. 06 オンライン
8. 奥滝優太：屋内移動に対する訪問リハビリからの支援目線について 協和キリン株式会社 2023. 07. 06 オンライン
9. 鹿野咲：CIDP Up To Date in Hokkaido 2023 「CIDP 患者のアンケート調査と外来リハビリテーションでの関わり」、2023. 8. 5，札幌
10. 本間冬真：ポジショニングから考える神経難病の摂食嚥下～パーキンソン病を中心に～、北海道難病医療提供体制整備事業 令和5年度神経筋疾患分野ネットワーク Web 研修会、2023. 9. 20
11. 樫村祐哉：神経疾患によるコミュニケーション障がいとコミュニケーション支援について～言語聴覚士から学ぶコミュニケーション支援の基礎～、ちとせの介護医療連携の会 在宅ケア・他職種連携コース“特別講座”，2023. 9. 20. 千歳
12. 熊谷隆人：脊髄小脳変性症・多系統萎縮症における言語療法，北海道であい友の会，2023. 11. 12，札幌
13. 成田雅：パーキンソン病患者のベッドモビリティ研究：関連要因と24時間モニタリング評価、パーキンソン病トータルマネジメント研究会・日本運動障害研究会（東京）、2023. 12. 7
14. 藤田賢一：摂食・嚥下，株式会社 ARTISAN さっぽろリハビリ・ラボ主催，2023. 12. 26. 訪問看護ステーションソレイユ（札幌市東区）
15. 太田経介・成田雅・坂野康介・岩部達也. パーキンソン病患者の理学療法（札幌）、第240回技術講習会、北海道理学療法協会、2024. 1. 28. 札幌
16. 橘俊輔：パーキンソン病における LSVTLOUD 治療、当院における使用症例を踏まえて、エーザイ Web セミナー、2024. 2. 7， オンライン
17. 後村圭太：LSVT BIG がパーキンソン病患者にもたらす変化とは、Parkinson’ s Disease Eisai Web Seminar 基調講演、2024. 2. 7 オンライン

【講義】

1. 本間冬真：作業療法概論Ⅲ 作業遂行能力の評価，札幌リハビリテーション専門学校、2023, 6, 26
2. 鹿野咲：地域で暮らすを“支える”人たちの視点と考え方，日本医療大学、2023, 9, 4
3. 後村圭太：「リハビリテーションにおけるセラピストって？」，日本医療大学キャリア支援センター講話、2023. 9. 14
4. 坂野康介、後村圭太：神経障害理学療法学，北海道リハビリテーション大学校、2023. 9. 20、9. 27
5. 坂野康介：多発性硬化症の理学療法，2023 年度認定理学療法士（神経筋障害）臨床認定カリキュラム，日本理学療法士協会・国立精神神経医療研究センター，2023. 10 月-12 月（web オンデマンド）
6. 鹿野咲：神経難病とリハビリテーション，札幌リハビリテーション専門学校、2023, 12, 20

【社会活動】

1. 藤田賢一：苫前町在宅ケア事業，北海道総合在宅ケア事業団・苫前町、2023, 5, 18～5, 19
2. 藤田賢一：苫前町在宅ケア事業，北海道総合在宅ケア事業団・苫前町、2023, 8, 7～8, 8
3. 藤田賢一：苫前町在宅ケア事業，北海道総合在宅ケア事業団・苫前町、2024, 3, 14～3, 15
4. 鹿野咲：北海道難病検診、利尻・礼文 2023. 9. 12. ～9. 14
5. 太田経介：一般社団法人 日本神経理学療法学会 北海道地方会役員，2023～
6. 太田経介：一般社団法人 日本神経理学療法学会 タスクフォース（パーキンソン病班），2023～

【HAL 実績】

北海道脳神経内科病院

疾患名	延べ人数
シャルコー・マリー・トゥース病	4
ALS	1
球脊髄性筋萎縮症	1
筋強直性ジストロフィー	1
ネマリンミオパチー	1
痙性対麻痺	1
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1
脊髄小脳変性症	2
脊髄空洞症	1
合計	13名

札幌パーキンソン MS 神経内科クリニック

疾患名	延べ人数
球脊髄性筋萎縮症	2
ネマリンミオパチー	3
進行性筋ジストロフィー	2
筋強直性ジストロフィー	1
スモン	1
合計	9名

(3) 神経難病看護・ケア部門

院外・院内研究会参加、看護部教育を報告する。

【看護部教育】

1. 研究会参加状況

【院外研修】

日 時	研修テーマ	主 催	参加者
2023年7月1日～24日	(Web研修) 23' 「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	ヴィクソンインターナショナル	5名
2023年9月14日～15日	看護管理者育成研修会（札幌第2支部）	北看協 第2支部	1名
2022年8月31日	(Web研修) <社会保険診療報酬算定要件研修>看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 2022改訂版（第2～5回）研修会	北看協	1名
2023年10月13日	2023年度感染対策セミナー	日本感染管理支援協会	2名
2024年3月25日	2024年度診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬改定説明会	日本看護協会	2名

【院内研修】

日 時	研修テーマ	講 師	主 催	参加数（看護職/全体）
2023年7月	MR Iの安全性について2	医療機器安全管理責任者：白濱英暁	院内感染対策委員会	全員
2023年10月	汚物処理に「ツールBox」	ICT	院内感染対策委員会	全員

2. 【看護部教育】

日 時	研修テーマ	参加者	担 当
2023年8月2日	ラダーⅠ、Ⅱ 救急看護研修	8名	教育委員会
2023年4月 学研e-ラーニング	看護マネジメントに活かす重症度、医療・看護必要度コース	看護職全員	看護必要度委員会

日 時	学研e-ラーニング 研修テーマ	参加者
2023年4月～10月	① 看護職と看護補助者との協働推進の背景	看護職全員
	② 看護補助者の位置づけ	
	③ 看護補助者との協働における看護業務の基本的な考え方	
	④ 看護補助者との協働における業務実施体制	
	⑤ 看護師による看護補助者への指示について	
	⑥ 知っておきたい看護補助者への適切な業務指示を行うための留意事項	
	⑦ 看護補助者と強度するための情報共有とコミュニケーション	
2023年4月～10月	① 医療制度の概要および病院の機能と組織の理解	看護助手全員
	② チームの一員としての看護補助者業務の理解	
	③ 守秘義務、個人情報保護の基礎知識	
	④ 労働安全衛生の基礎知識	
	⑤ 接遇・マナーの基礎	
	⑥ 倫理の基本	
	⑦ 環境整備	
	⑧ 入浴のお世話	
	⑨ 清拭のお世話	
	⑩ 排泄のお世話	
	⑪ 食事のお世話	
	⑫ 洗面のお世話	
	⑬ 口腔ケア	
	⑭ 移動のお世話	
	⑮ 診療にかかわる補助業務の基本	

	⑯ 医療安全	
	⑰ 感染予防	
	⑱ 認知症患者の対応	
	⑲ 療養生活上の世話にかかわる業務マニュアル	
	⑳ 看護補助者が知っておきたい実践医療用語	

3. 【対外活動】

【実習受け入れ】

年 月 日	学校名 実習内容	受入数
2023年7月25日～8月9日	札幌保健医療大学3年 高齢者看護	3名
2023年9月4日～9月21日	札幌保健医療大学3年 高齢者看護	3名
2023年10月24日～25日	天使大学1年 基礎看護学臨地実習I	5名
2023年10月31日～11月1日	天使大学1年 基礎看護学臨地実習I	4名

(4) 神経難病医療相談・福祉支援部門

【年間事業計画】

1. 【医療機関訪問】

COVID-19 感染症が 5 類に移行し感染対策が緩和され始めた。当部署でも他医療機関との連携が円滑に行えるように当部署の役割分担を院外に周知するという目的と、医療機関の情報収集と連携強化を行う目的で医療機関を選定し、訪問するというこの活動を再開することとなった。感染対策上、訪問先は以前よりも少なく選定し、訪問人数も少なくできるように努めた。訪問を実施できなかった医療機関については、文書や電話等の手段をとり、当院・当部署の役割について周知を行い、患者様に関する情報収集は継続して行うことができた。今後も感染対策を実施しながら、医療機関訪問活動を継続できるように努めたい。

2. 【サロン活動】

COVID-19 感染症が 5 類に移行し感染対策が緩和されたが、対面での活動自粛を踏まえて、各チームで担当を決めて活動に励んだ。しかし、人員配置の不足があり、実施にいたらない計画もあった。

(1) 患者・家族向けのサロン

感染状況の中、なかなか当院職員と患者様、患者様同士の交流という場の提供が難しい状況であった。前年度に並び広報誌の発行を準備していたが、人員配置の不足があり通常業務を優先したため、期間内に完了することができなかった。次年度には広報誌の発行やサロン開催など様々な手段で活動を継続する方法を検討できるように努めたい。

(2) 在宅療養支援者向けのサロン

昨年度の課題を活かし、今年度はオンラインサロンを 1 回開催することができた。

① 2023 年 10 月 20 日 17:30～19:00

札幌市内全域の居宅支援事業所ケアマネジャーを対象に実施した。これまでのアンケートをもとに、『どんな時に神経内科に相談するの?』というテーマで当院医師による講義を行った。講義を前半と後半に分割し、間に質問時間を設けた。講義前半では、脳神経内科よく診ている疾患・症状について、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の病気に分け、教科書や参考書で多くみられる疾患からあまり耳にすることのない疾患についての講義を行い、後半には、嚥下障害に対する検査や栄養管理、社会保障制度や ACP (Advance Care Planning) について講義を行った。

これまでのアンケート結果から、講義の時間延長を希望されることが聞かれていたため、今回は交流会の時間は設けず、講義と講義の間に質問時間を設けて意見を引き出すような形式とした。参加者と当院スタッフとのやりとりが主となり、意見交流という形ではなかったが、それぞれがどのような支援をしたり、悩みを抱えているのかなどを聞く場にはなったと考える。

居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、訪問看護ステーションに定めて参加を募った。14 事業所から合計 24 名の参加があった。サロン運営に関しては、通信機器のトラブルもなく円滑に企画を進めることができた。

感染状況に関わらず、オンラインでのサロン開催については、双方の移動問題などがクリアされ、負担が少ないと感じられることが多いため、サロン開催の手段の一つとして、今後も継続できればと考える。

3. 【院内研修・研究活動】

今年度は、人員減少による体制不備により、資料配布という形をとることも困難であると判断し、活動は休止した。

4. 【地域社会福祉活動】

【検診や医療相談】

月 日	担当者	名 称
2023 年 9 月 12 日～14 日	小林 陽子	令和 3 年度神経難病患者訪問検診 ～礼文町、利尻町、利尻富士町 (北海道稚内保健所利尻支所)

【研修会・学会参加】

月 日	参加者	名 称
2023 年 9 月 30 日 ～10 月 1 日	下川 満智子	第 28 回日本難病看護学会学術集会 (日本難病看護学会)
2023 年 11 月 24 日 ～11 月 25 日	中山 宰歌 河野 光香	第 11 回日本難病医療ネットワーク学会学術集会 (日本難病医療ネットワーク学会)

4. 北海道神経難病研究センター主催講演会

【北海道神経難病リハビリテーションケースカンファレンス】

1、【2023 年度活動報告】

開催日	タイトル	参加者数
2023年7月20日	早期パーキンソン病患者の立位姿勢制御の 停滞に対する介入は重要ではなかろうか	107名
2023年11月16日	パーキンソン病患者の疲労について考える	99名
2024年3月21日	パーキンソン病の音量低下と自己校正について考える	81名

2、【2023 年度活動計画】

1) 幹事

北祐会神経内科病院：PT 中城、PT 坂野、PT 太田、OT 本間、ST 藤田

札幌MS パーキンソン神経内科クリニック：OT 高橋

北海道医療大学：PT 岩部

訪問看護ステーションソレイユ：PT 奥山

札幌西円山病院：PT 松岡

2) 幹事会開催予定日

令和6年4月、令和6年10月、令和7年1月（詳細は事前の幹事会メールにて決定）

3) 例会開催予定日

令和4年6月、令和6年11月、令和7年3月（詳細は事前の幹事会にて決定）

4) 例会開催方法

- ・web 開催

【神経難病セラピストのための座談会】

1、【2023 年度活動報告】

	月 日	タイトル	参加者数
第 47 回	2023/5/23	『パーキンソン病の評価』 ～みなさんどうしてますか？～ ①移動 ②高次脳機能 ③ADL ④コミュニケーション	34 名 オンライン 34 名
第 48 回	2023/7/25	『脊髄小脳変性症の評価と治療編』 ～みなさんどうしてますか？～ ①移動、②高次脳機能とメンタルサポート、③ADL、 ④コミュニケーションと嚥下	32 名 会場 19 名 オンライン 13 名
第 49 回	2023/9/19	『筋萎縮性側索硬化症の評価と治療編』 ～みなさんどうしてますか？～ ①ADL・移動、②コミュニケーション、③在宅サポート	22 名 会場 12 名 オンライン 10 名
第 50 回	2023/11/21	『いろいろな疾患について話してみよう』 ①進行性核上性麻痺、②大脳皮質基底核変性症、③多発性硬化症、④多系統萎縮症、⑤慢性炎症性脱髄性多発神経炎／シャルコー・マリー・トゥース病、⑥筋ジストロフィー	18 名 会場 10 名 オンライン 8 名
第 51 回	2024/2/20	『どういう業種の人達と関係を作れると良いのか』 ～在宅復帰・就労支援・日常生活・自動車運転など～	17 名 会場 12 名 オンライン 5 名

2、2024 年度活動計画

令和 6 年度は、幹事会・例会ともにハイブリッド形式での開催を計画しております。会場は当院リハビリテーション室で行う予定です。令和 5 年度と同様に、神経難病に携わるセラピストを対象とした内容の検討や若手セラピストの悩みを解決できるテーマなど例会の工夫、広報の方法を検討し実施していきます。

1) 幹事

北海道脳神経内科病院：PT 中城雄一、PT 坂野康介、ST 藤田賢一、OT 小室祐子、OT 馬道健弘

札幌西円山病院：OT 野島将吾

札幌パーキンソン MS 神経内科クリニック：OT 奥滝優太、PT 萩原大悟

幹事 8 名

2) 幹事会開催予定日

4月23日(火)、6月18日(火)、8月20日(火)、10月22日(火)、1月21日(火)

幹事会開催予定

5回

3) 例会開催予定日

5月21日(火)、7月23日(火)、9月17日(火)、11月19日(火)、2月18日(火)

例会開催予定

5回

第12回
北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会
サテライトカンファレンス
2024年3月31日(日)
10時00分～12時30分
参加無料 オンライン講演会

講演Ⅰ 講演60分 質疑15分

座長 医療法人北祐会 北海道脳神経内科病院
リハビリテーション部 理学療法科 主任 太田 経介 先生

『パーキンソン病の認知機能障害 評価から対応策を考える』

演者 独立行政法人国立病院機構 仙台西多賀病院
リハビリテーション科 作業療法士 細川 大瑛 先生

講演Ⅱ 講演60分 質疑15分

座長 医療法人北祐会 北海道脳神経内科病院
理事長 濱田 晋輔 先生

『認知機能とサブタイプに着目したパーキンソン病の診断と治療』

演者 独立行政法人国立病院機構 仙台西多賀病院
脳神経内科 医長 馬場 徹 先生

共催：北海道神経難病研究センター、住友ファーマ株式会社
後援：北海道難病医療提供体制整備事業

第12回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会
サテライトカンファレンス

2024年3月31日（日）10時00分～12時30分

参加者：166名
アンケート回答者：53名